

日本史

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
日本史概論	日本史概説1	2	柳原 敏昭	3	木曜2限
日本史概論	日本史概説2	2	柳原 敏昭	4	木曜2限
日本史基礎講読	近現代史料講読	2	安達 宏昭	3	水曜4限
日本史基礎講読	中世史料講読	2	柳原 敏昭	4	火曜3限
日本史基礎講読	古代史料講読	2	堀 裕	4	火曜4限
古文書学	中世古文書読解入門	2	柳原 敏昭	3	火曜3限
古文書学	近世古文書読解	2	籠橋 俊光	4	水曜4限
日本史各論	英語で読む日本中世文書	2	柳原 敏昭	5	月曜5限
日本史各論	近世社会の研究	2	籠橋 俊光	5	金曜2限
日本史各論	日本近現代史研究の現状 と課題(日中戦争・アジア・ 太平洋戦争期・戦後)	2	安達 宏昭	6	水曜2限
日本史各論	日本古代史の研究と方法 (1)	2	堀 裕	6	金曜2限
日本史各論	地域の歴史資料の保全と 継承を考える	2	佐藤 大介	5	集中講義
日本史各論	日本中世史料論の諸問題	2	講師(非)	5	集中講義
日本史演習	鎌倉時代の法と社会(1)	2	柳原 敏昭	5	月曜3限
日本史演習	中世史の研究(1)	2	柳原 敏昭	5	月曜4限
日本史演習	古代史料の研究(2)	2	堀 裕	5	火曜3限

日本史

日本史演習	近世史料研究(1)	2	籠橋 俊光	5	火曜4限
日本史演習	近現代史研究法(1)	2	安達 宏昭	5	火曜5限
日本史演習	近現代政治・社会史の研究(1)	2	安達 宏昭	5	水曜3限
日本史演習	近世史研究法(1)	2	籠橋 俊光	5	水曜5限
日本史演習	古代史料研究(1)	2	堀 裕	5	金曜3限
日本史演習	鎌倉時代の裁判と社会(2)	2	柳原 敏昭	6	月曜3限
日本史演習	中世史料の研究(2)	2	柳原 敏昭	6	月曜4限
日本史演習	古代史料の研究(2)	2	堀 裕	6	火曜2限
日本史演習	近世史料研究(2)	2	籠橋 俊光	6	火曜4限
日本史演習	近現代史研究法(2)	2	安達 宏昭	6	火曜5限
日本史演習	近現代政治・社会史の研究(2)	2	安達 宏昭	6	水曜3限
日本史演習	近世史研究法(2)	2	籠橋 俊光	6	水曜5限
日本史演習	古代史料研究(2)	2	堀 裕	6	金曜3限
日本史実習	史料整理・保存の理論と方法	2	籠橋 俊光	5	金曜4限 金曜5限
日本史実習	史料整理実習	2	籠橋 俊光	6	金曜4限 金曜5限
アーカイブズ学演習	アーカイブズ学研究法	2	加藤 諭	5	木曜2限

科目名：日本史概論

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：3 単位数：2.00 単位

担当教員：柳原 敏昭、安達 宏昭、堀 裕、籠橋 俊光

コード：LB34201, 科目ナンバリング：LHM-HIS201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本史概説 1

2・授業の目的と概要：本講義では、「史料」に注目して、日本史の概要や特色を学ぶことを目的とする。史料とは、歴史研究を成り立たせるための根幹であり、史料がなくては歴史研究は成り立たない。史料を読み解くことでたどりついた事実もあれば、そこに記された嘘に気づくことで、当時の社会背景や、国家や個人による歴史の創造/捏造を知ることにもできる。また、歴史が扱う「史料」は活字で記された内容だけではない。とくに近年は、活字になる前の原本・写真の調査や、文字が記された料紙、文字の書き方にまで研究が広がった。さらに、文字史料だけでなく、考古資料や絵画、彫刻、映画、伝承、祭礼、インタビューなどを利用した研究の進展も著しい。これら史料（資料）をとりあげて、歴史研究がどのように構築されているのかを明らかにすることで、その強みと弱点も提示されるであろう。

3. 学習の到達目標：日本の歴史の概要を学び、理解すること

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス（柳原）
2. 古代 1（堀）
3. 古代 2（堀）
4. 古代 3（堀）
5. 中世 1（柳原）
6. 中世 2（柳原）
7. 中世 3（柳原）
8. 近世 1（籠橋）
9. 近世 2（籠橋）
10. 近世 3（籠橋）
11. 近現代 1（安達）
12. 近現代 2（安達）
13. 近現代 3（安達）
14. 歴史学の現在（安達）
15. まとめ（堀・籠橋）

5. 成績評価方法：授業に対する意見提出などの授業への参加（30%）・レポート（70%）

6. 教科書および参考書：随時プリントを配布する。

7. 授業時間外学習：配布されたプリントや参考文献を、授業後に復習のために、見直したり、読んだりする。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

受講生は、(1)原則として文学部に在籍する者と、(2)他学部の教職の関係から単位取得が必要な者、ならびに(3)4年生とする。

科目名：日本史概論

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：4 単位数：2.00 単位

担当教員：柳原 敏昭、安達 宏昭、堀 裕、籠橋 俊光

コード：LB44201, 科目ナンバリング：LHM-HIS201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本史概説 2

2・授業の目的と概要：本講義では、「人物」を通して、日本史の概要や特色を学ぶことを目的とする。人間の歴史は、国家機構や経済、法律の歴史と捉えることもできるが、それらはすべて、生身の人間が行った営みの積み重ねであった、と言う事もできる。そこで、受講者には、特定の人物の活動やその生涯を学ぶことによって、その人物、あるいは人物のイメージが歴史を動かす場面を目の当たりにしたり、市井の男女が、歴史に翻弄される様子を目撃してもらいたい。そのうえで、このように時に、なぜ共感や嫌悪感が生まれやすいのかを考えてみよう。おそらくは、自分と同じ肉体を持ち、懊悩したり、歓喜したりする人間を想像するからであり、それは歴史叙述を楽しむ聞き手の価値観が、直截に映し出されたためと考えられる。これは、歴史と文学との出会いの場でもあり、人物から歴史を語ることの意味と意義について考える機会でもある。

3. 学習の到達目標：日本の歴史の概要を学ぶこと

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス (安達)
2. 古代 1 (堀)
3. 古代 2 (堀)
4. 古代 3 (堀)
5. 中世 1 (柳原)
6. 中世 2 (柳原)
7. 中世 3 (柳原)
8. 近世 1 (籠橋)
9. 近世 2 (籠橋)
10. 近世 3 (籠橋)
11. 近現代 1 (安達)
12. 近現代 2 (安達)
13. 近現代 3 (安達)
14. 歴史学における人物 (柳原)
15. まとめ (堀・籠橋)

5. 成績評価方法：授業に対する意見提出などの授業への参加 (30%)・レポート (70%)

6. 教科書および参考書：随時プリントを配布する。

7. 授業時間外学習：配布されたプリントや参考文献を、授業後に復習のために、見直したり、読んだりする。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

受講生は、原則として文学部に在籍する者と、他学部の教職の関係から単位取得が必要な者ならびに 4 年生とする。

科目名：日本史基礎講読

曜日・講時：水曜 4 限

semester：3 **単位数：**2.00 単位

担当教員：安達 宏昭

コード：LB33403, **科目ナンバリング：**LHM-HIS205J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：近現代史料講読

2・授業の目的と概要：日本の近現代史に関する史料（文書）を、輪読する形式で授業を進めていく。書かれている内容を理解するだけでなく、史料の歴史的意義の分析や、近現代史の基礎的な構造についての理解を深める。

3. 学習の到達目標：(1) 日本近現代史の史料について、読解し理解できるようになる。

(2) 史料の読解を通して、日本近現代史を理解する上で基礎的な事柄について認識を深めることができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・大日本帝国憲法の特徴
2. 大日本帝国憲法体制の展開 (1)
3. 大日本帝国憲法体制の展開 (2)
4. 大日本帝国憲法体制の展開 (3)
5. 大日本帝国憲法体制の展開 (4)
6. 大日本帝国憲法体制の変容 (1)
7. 大日本帝国憲法体制の変容 (2)
8. 大日本帝国憲法体制の変容 (3)
9. 大日本帝国憲法体制の変容 (4)
10. 大日本帝国憲法体制の変容 (5)
11. 日本国憲法体制の形成と展開 (1)
12. 日本国憲法体制の形成と展開 (2)
13. 日本国憲法体制の形成と展開 (3)
14. 日本国憲法体制の形成と展開 (4)
15. 授業のまとめ

5. 成績評価方法：(○) レポート[60%]・(○) 出席[20%]・(○) その他（レスポンスペーパーなど） [20%]

6. 教科書および参考書：随時、プリントを配布する。

7. 授業時間外学習：事前に配布された史料（プリント）を授業までに必ず読んでおく。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

履修要件：受講者は「近現代史料講読」の未履修者に限る。

オフィスアワー：水曜日 16：20～17：50、要予約

科目名：日本史基礎講読

曜日・講時：火曜3限

Semester：4 単位数：2.00 単位

担当教員：柳原 敏昭

コード：LB42303, 科目ナンバリング：LHM-HIS205J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：中世史料講読

2. 授業の目的と概要： 歴史学は実証の上に成り立つ学問であり、それを学ぶ者は歴史資料を的確に読みこなすことができなければならない。本講では、その第一歩として日本中世史に関する代表的な史料を講読し、基礎的な読解力を身につけることを目標とする。また、中世社会の特質についても考える。

3. 学習の到達目標：基本的な中世史料を読解できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス
 - 2) 学生による報告と討論
 - 3) 学生による報告と討論
 - 4) 学生による報告と討論
 - 5) 学生による報告と討論
 - 6) 学生による報告と討論
 - 7) 学生による報告と討論
 - 8) 学生による報告と討論
 - 9) 学生による報告と討論
 - 10) 学生による報告と討論
 - 11) 学生による報告と討論
 - 12) 学生による報告と討論
 - 13) 学生による報告と討論
 - 14) 学生による報告と討論
 - 15) 授業のまとめ
- 原則として対面

5. 成績評価方法：レポート [40%]・出席 [20%]・その他（授業中における発表の内容、議論への関与度） [40%]

6. 教科書および参考書：講義時にプリントを配布する。

7. 授業時間外学習：報告者はおおよそ2週間前から準備を始めること。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

古文・漢文の基礎的読解力を要する。

科目名：日本史基礎講読

曜日・講時：火曜 4 限

Semester：4 単位数：2.00 単位

担当教員：堀 裕

コード：LB42404, 科目ナンバリング：LHM-HIS205J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：古代史料講読

2. 授業の目的と概要：日本古代史に関する史料の読解を行うことで、歴史史料読解の能力を養うことを目的とする。使用する史料は漢文史料である。受講生は、史料を読解し、各自報告を行う。

3. 学習の到達目標：日本古代の漢文史料の読解力を身につける

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス 日本古代の文献史料について。史料講読のすすめかた。
2. 日本古代の漢文史料の読み方 (1)
3. 日本古代の漢文史料の読み方 (2)
4. 日本古代の漢文史料の読み方 (3)
5. 日本古代の漢文史料の読み方 (4)
6. 日本古代の漢文史料の読み方 (5)
7. 古代漢文史料を読む (1)
8. 古代漢文史料を読む (2)
9. 古代漢文史料を読む (3)
10. 古代漢文史料を読む (4)
11. 古代漢文史料を読む (5)
12. 古代漢文史料を読む (6)
13. 古代漢文史料を読む (7)
14. 古代漢文史料を読む (8)
15. まとめ と試験

5. 成績評価方法：筆記試験 (50%)・授業への参加 (50%)

6. 教科書および参考書：講義中プリントを配付

7. 授業時間外学習：配布された史料を講義の前に読んでおくこと、および復習を行うこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：古文書学

曜日・講時：火曜3限

semester：3 単位数：2.00 単位

担当教員：柳原 敏昭

コード：LB32303, 科目ナンバリング：LHM-HIS206J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：中世古文書読解入門

2・授業の目的と概要： 古文書とは、差出人と受取人とが明示されている歴史的文書をいう。身近な例で言えば、手紙、合格通知、入学許可書、授業料納入通知書、授業料領収書、学位記等が一定の年月を経れば古文書となる（日記や編纂物、文学作品等は古文書には含まれない）。古文書は、歴史研究にとって最も大切な史料である。本講では、中世の武家様文書を主な素材として、用字・用語に習熟するとともに、様式の展開についてはその歴史的背景についても学べるようにしたい。

3. 学習の到達目標：(1)中世の原文書を読解できるようになる。

(2)中世古文書学の基礎知識を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

対面のみ

- 1) ガイダンス①
- 2) ガイダンス②
- 3) 鎌倉幕府文書 下文
- 4) 鎌倉幕府文書 政所下文
- 5) 鎌倉幕府文書 御教書
- 6) 鎌倉幕府文書 下知状
- 7) 室町幕府文書 御判御教書
- 8) 室町幕府文書 御内書
- 9) 室町幕府文書 奉書系文書
- 10) 室町幕府文書 命令の到達・施行
- 11) 軍事関係文書
- 12) 戦国大名文書①
- 13) 戦国大名文書②
- 14) 讓状、起請文など
- 15) 授業のまとめと試験

5. 成績評価方法：筆記試験 [60%]・出席 [20%]・その他（講義中における発表の内容と授業への参加度） [20%]

6. 教科書および参考書：随時プリントを配布する。

7. 授業時間外学習：受講者には毎回、古文書（写真版コピー）を筆写する課題が出される。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

古文・漢文の基礎的読解力を要する。

科目名：古文書学

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：4 **単位数：**2.00 単位

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB43403, **科目ナンバリング：**LHM-HIS206J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：近世古文書読解

2・授業の目的と概要：古文書は歴史学において最も重要な材料であり、その読解は必要不可欠な技術である。なかでも近世史研究においては、実際に膨大な原文書を読み、取り扱う能力が必要とされる。本講義は、近世古文書のなかでも代表的な文書様式について理解を深め、読解能力を培うものである。さまざまな近世の古文書が自力で読めるようになることを目標とするため、テキストとして配布する古文書（コピー）について毎回受講者の中から指名し、読みを発表させる。

3. 学習の到達目標：(1)近世古文書に関する基礎的知識を持つ。
(2)近世古文書の読解能力を養う。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は対面で実施するが、本講義は原則として対面で実施する。。

1. ガイダンス・近世古文書学について
2. 近世古文書の特徴と基礎的知識
3. 文字の読解法とその訓練
4. 武家文書 (1) 将軍関係文書・将軍発給文書①
5. 武家文書 (2) 将軍発給文書②
6. 武家文書 (3) 将軍発給文書③
7. 武家文書 (4) 老中発給文書①
8. 武家文書 (5) 老中発給文書②
9. 武家文書 (6) 幕府発給廻状
10. 町方・村方文書 (1) 定
11. 町方・村方文書 (2) 人別帳・検地帳
12. 町方・村方文書 (3) 年貢関係文書
13. 町方・村方文書 (4) 商業関係文書・訴願関係文書
14. 町方・村方文書 (5) 家・個人文書
15. 講義のまとめ

5. 成績評価方法：出席[20%]・確認テスト[80%]

6. 教科書および参考書：随時プリント配布。受講に際して古文書読解用の辞典類を用意すること。

7. 授業時間外学習：予習として、事前に配布されたプリントの古文書を古文書解読辞典を用いて読解しておく。受講後、講義内容をもとに自らの読みを確認し、習熟に努める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50 (要予約)

科目名：日本史各論

曜日・講時：月曜 5 限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：柳原 敏昭、DAMICO JOHN CLARK

コード：LB51501, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：英語で読む日本中世文書

2・授業の目的と概要： 鎌倉時代の古文書の原文と英語訳の双方を読んで、史料を英訳するプロセスについて学ぶ。そのことを通じて、史料用語を概念化することについても学ぶ。担当者をあらかじめ決め、その報告を基に議論していくスタイルをとる。

3. 学習の到達目標：(1) 日本史の研究を国際的に発信するための基礎を身につける。
(2) 史料用語を概念化することに習熟する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

対面授業のみ

- 1) ガイダンス
- 2) 学生による報告と討論
- 3) 学生による報告と討論
- 4) 学生による報告と討論
- 5) 学生による報告と討論
- 6) 学生による報告と討論
- 7) 学生による報告と討論
- 8) 学生による報告と討論
- 9) 学生による報告と討論
- 10) 学生による報告と討論
- 11) 学生による報告と討論
- 12) 学生による報告と討論
- 13) 学生による報告と討論
- 14) 学生による報告と討論
- 15) 授業のまとめ

5. 成績評価方法：レポート [40%]・出席 [20%]・その他（授業中における発表の内容、授業への参加度）[40%]

6. 教科書および参考書：テキストは授業中に配付する。参考書は、ジェフリー・マス『The Kamakura Bakufu: A Study in Documents』（スタンフォード大学出版会）。

7. 授業時間外学習：報告者は事前に十分な準備を行うこと。報告にあたっていない学生も、史料を読み、疑問点・問題点を整理した上で授業に臨むこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

日本史演習「英語で読む日本中世文書」(1)(2)は連続履修すること。

科目名：日本史各論

曜日・講時：金曜 2 限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB55201, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：近世社会の研究

2・授業の目的と概要：日本近世史における代表的ないしは最新の論文を読み、理解し、それをもとに討論する。受講者は指定された論文を事前に読み、順番にレポーターとして要旨等を紹介し、討論に参加する。受講に際しては議論への積極的な参加を求めることになる。必要に応じ、学外の見学なども実施する。なお、近世史で卒論の執筆を検討している 3・4 年生は受講することが望ましい。

3. 学習の到達目標：(1) 近世史の論文を読むことを通じて、日本近世史への理解を深める。
(2) 報告、討論の方法を身につけ、自ら論文を執筆する基礎を養成する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は対面で実施するが、場合によりオンライン受講を認める。

1. ガイダンス
2. 受講者による報告と討論(1)
3. 受講者による報告と討論(2)
4. 受講者による報告と討論(3)
5. 受講者による報告と討論(4)
6. 受講者による報告と討論(5)
7. 受講者による報告と討論(6)
8. 受講者による報告と討論(7)
9. 受講者による報告と討論(8)
10. 受講者による報告と討論(9)
11. 受講者による報告と討論(10)
12. 受講者による報告と討論(11)
13. 受講者による報告と討論(12)
14. 受講者による報告と討論(13)
15. 全体のまとめ

5. 成績評価方法：(○) 出席 [20%] (○) レポート [40%] (○) その他 (報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]

6. 教科書および参考書：講義中に指示する。

7. 授業時間外学習：予習として、該当する論文を精読し、あわせて関連する論文を収集・読解し、当該論文の持つ研究史的意義について考察を加える。復習として、講義内容を踏まえつつ当該論文を再読し、習熟に努める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

オフィスアワー 火曜日 16：20～17：50 (要予約)

科目名：日本史各論

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：6 単位数：2.00 単位

担当教員：安達 宏昭

コード：LB63202, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本近現代史研究の現状と課題（日中戦争・アジア・太平洋戦争期・戦後体制）

2・授業の目的と概要：日本近現代史研究における現時点での到達点を理解するために、岩波講座『日本歴史』シリーズ近現代編を読んでいく。今年は、主に昭和戦前・戦後期を対象とする第17～19巻（近現代3・5）を中心に論文を読む。進め方は、受講者が順番にレポーターとなって、担当する箇所の要旨や内容の特徴を研究史と照らし合わせて報告し、その上で受講者全員によって討論する方式で行う。それにより、相互に認識を深める。

3. 学習の到達目標：(1)日本近現代史に関する最近の講座論文を読解し、内容を理解できるようになる。
(2)講座論文の内容要旨を発表し、研究史の中に位置づけて、討論することができるようになる。
(3)最近の研究成果を通して、近現代史研究の現状と課題について、理解できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：ガイダンスと日本近現代史研究の特徴
- 第2回：日本近現代史研究の方法
- 第3回：「満州事変・日中戦争の勃発と立憲政治」についての報告と討論
- 第4回：「大政翼賛会の成立から対英米開戦まで」についての報告と討論
- 第5回：「戦局の展開と東条内閣」についての報告と討論
- 第6回：「総力戦の遂行と日本社会の変容」についての報告と討論
- 第7回：「戦時統制経済」についての報告と討論
- 第8回：「大東亜共栄圏」論」についての報告と討論
- 第9回：「戦時・戦後農村の変容」についての報告と討論
- 第10回：「戦争と大衆文化」についての報告と討論
- 第11回：「象徴天皇制の形成と展開」についての報告と討論
- 第12回：「サンフランシスコ講和条約と日本の戦後処理」についての報告と討論
- 第13回：昭和戦前戦中期に関する論文1についての報告と討論
- 第14回：昭和戦前戦中期に関する論文2についての報告と討論
- 第15回：まとめと総合討論

5. 成績評価方法：(○) レポート [60%]・(○) 出席 [20%]・(○) その他（報告の内容、討論への取り組みなど）[20%]

6. 教科書および参考書：(教科書) 岩波講座『日本歴史』第18巻（近現代4）、岩波書店、2014年。(参考論文) 適宜、配布する。

7. 授業時間外学習：上記の教科書や参考論文の指定された箇所を、事前に読んで、議論できるようにしておく。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

オフィスアワー：水曜日 16：20～17：50 要予約

科目名：日本史各論

曜日・講時：金曜 2 限

セメスター：6 単位数：2.00 単位

担当教員：堀 裕

コード：LB65201, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本古代史の研究と方法（1）

2・授業の目的と概要：開講時に、講義担当者が、もっとも関心を持つ日本古代史に関する研究テーマを取り上げて講義を行う。本年度は、「辺境の歴史」を取り上げる予定である。検討は日本を中心に行うが、朝鮮史・中国史との比較研究もすすめたい。これにより、日本古代史の研究成果を学ぶとともに、研究とはどのようなプロセスで形成されるのかを学ぶ機会としたい。

3. 学習の到達目標：日本古代史に関する講義を通して、日本古代史に関する研究成果と研究方法を学ぶ。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

対面授業を中心に、リアルタイムのオンライン授業も開く

1. どのような関心のもとに講義を行うか説明をする
2. 古代史講義 1
3. 古代史講義 2
4. 古代史講義 3
5. 古代史講義 4
6. 古代史講義 5
7. 古代史講義 6
8. 古代史講義 7
9. 古代史講義 8
10. 古代史講義 9
11. 古代史講義 10
12. 古代史講義 11
13. 古代史講義 12
14. 古代史講義 13
15. まとめ

5. 成績評価方法：レポート（100%）

6. 教科書および参考書：講義中に提示する

7. 授業時間外学習：講義中にあげた参考論文や関連する史料を各自で読むこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本史各論

曜日・講時：集中講義

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：佐藤 大介

コード：LB98805, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：地域社会に残る歴史資料の保全と継承を考える

2・授業の目的と概要：この講義では、地域社会に今なお膨大に残されている歴史資料を守り、伝えるための課題や、そのための実践の現状について、実地に活動している方々に直接お話を聞きつつ学びます。特に、日本で頻発している東日本大震災後の歴史資料レスキュー活動や、目下大きな課題になっている、地域社会に膨大に残されている古文書、民具その他の歴史資料をどのように守っていくのかについて討論などを通じて、課題の所在を認識することを目的とします。

3. 学習の到達目標：・過去の歴史資料保存をめぐる経緯を踏まえながら、地域社会に残された歴史資料を継承するための課題を学びます。

・講義を通じて、「社会にとっての歴史研究者の存在意義とは何か」ということを自ら考える力を付けます。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1日 危機に瀕する地域の史料

1 ガイダンス

2 講義 「歴史資料」とは

3 講義 地域の歴史資料の置かれた現状

第2日 「1.17」の経験、「3.11」を経て一大災害時の史料レスキュー

4 講義 阪神・淡路大震災での歴史資料レスキュー

5 講義 東日本大震災での歴史資料レスキュー

6 質疑応答

第3日 福島県浜通り地方での史料レスキュー

4 講義 原発被災地での活動①

5 講義 原発被災地での活動②

6 質疑応答

第4日 歴史資料を通じた地域づくり

10 講義 史料を通じて地域と向き合う①

11 講義 史料を通じて地域と向き合う②

12 質疑応答

第5日 人・コミュニティへの支援としての歴史資料保全

13 講義 史料保全の可能性①

14 講義 史料保全の可能性②

15 質疑応答

*各回の講義に、外部講師を招聘する予定である。

*上記は昨年度ベースのものであり、講義のより詳細な内容については、日程の確定および履修登録完了時に、受講予定者に提示する予定である。

5. 成績評価方法：・平常点（出席、討論への参加）（40パーセント）

・レポート（60パーセント） *日本語のみとします。

6. 教科書および参考書：・奥村弘『大震災と歴史資料保存』（吉川弘文館 2011年）

・平川新・佐藤大介編『歴史遺産を未来へ』（東北大学東北アジア研究センター報告 2012年）

・奥村弘編『歴史文化を大災害から守る 地域歴史資料学の構築』（東京大学出版会 2014年）

ほか、講義中指示する。

7. 授業時間外学習：・歴史資料の救済・保全活動のボランティアが、現在日本の31組織によって実施されている。それらに参加し、交流を深めることが、本講義の内容を、真に体得するために有用である。

・上記の参考文献、およびそれらに引用されている関連文献に、可能な範囲で目を通しておくこと。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practical business

○

9. その他：

・講義は日本語で行います。

・学部4年生が受講する場合、事前の手続きにより、大学院生対象の「認定アーキビスト」の必修単位とすることが出来ます。

・講義の内容に、自然災害などの被災状況の紹介、写真や記録などの資料が含まれます。それらの内容を目にする・読むなどのことに不安がある受講者は、あらかじめ申し出てください。

科目名：日本史各論

曜日・講時：集中講義

Semester：5 単位数：2.00 単位

担当教員：講師（非）

コード：LB98806, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本中世史料論の諸問題

2. 授業の目的と概要：日本中世の文書史料を中心とした史料論的研究の一端について講義する。近年の研究動向をふまえて、文書の原本がモノとして帯びる多様な情報の抽出と歴史的解釈を実践するとともに、中世文書の実例に即した日欧比較についても講じる。これらを通じて、日本中世文書の史料的特質について理解を深めるとともに、グローバルな視点に立った文書史料の分析方法を習得する。

3. 学習の到達目標：1. 日本中世文書の史料的特質について理解する。
2. 史料分析の具体的方法を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 史料類型
3. 文書史料論の研究動向（1）
4. 文書史料論の研究動向（2）
5. 生成と機能（1）
6. 生成と機能（2）
7. 保管の諸形態
8. 機能の遷移
9. 廃棄と再利用
10. 階層性
11. 身体性
12. 地域性
13. 比較文書論
14. 情報解析の実践（史料原本の見学）

15. ま と め
原則として対面

5. 成績評価方法：レポート [60%]・出席 [20%]・その他（講義中における発表の内容と授業への参加度） [20%]

6. 教科書および参考書：随時プリントを配布する。

7. 授業時間外学習：授業中に紹介される研究論文や学術書を各自で検討する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本史演習

曜日・講時：月曜 3 限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：柳原 敏昭

コード：LB51306, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：鎌倉時代の法と社会(1)

2・授業の目的と概要： 鎌倉幕府は、基本法典である御成敗式目を編纂し、そのほか多数の法令・行政命令を発した（追加法という）。また、裁判記録も残されている。それらは鎌倉時代の法・社会、政権の性格を解明する上での重要な史料である。この時間は、「裁許状」および関連史料の精密な読解を通じて、鎌倉時代の裁判と社会について探究する。授業は受講生による発表と討論を中心として行なう。

3. 学習の到達目標： (1) 中世史料の基礎的な読解力を身につける。
(2) 報告・討論の方法の基礎を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

原則として対面

- 1) ガイダンス
- 2) 学生による報告と討論
- 3) 学生による報告と討論
- 4) 学生による報告と討論
- 5) 学生による報告と討論
- 6) 学生による報告と討論
- 7) 学生による報告と討論
- 8) 学生による報告と討論
- 9) 学生による報告と討論
- 10) 学生による報告と討論
- 11) 学生による報告と討論
- 12) 学生による報告と討論
- 13) 学生による報告と討論
- 14) 学生による報告と討論
- 15) 授業のまとめ

5. 成績評価方法： リポート [40%]・出席 [20%]・その他（授業中における発表の内容） [40%]

6. 教科書および参考書： テキストは開講時に配付する。参考書は瀬野精一郎編『鎌倉幕府裁許状集』上下（吉川弘文館）。

7. 授業時間外学習： 報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も、史料を読み、疑問点・問題点を整理した上で授業に臨むこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

受講者は日本中世史料に関する基礎知識をもっていることが望ましい。日本史演習「鎌倉時代の法と社会(1)(2)」(柳原担当)は連続履修すること。

科目名：日本史演習

曜日・講時：月曜 4 限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：柳原 敏昭

コード：LB51404, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：室町時代後期の政治と社会(1)

2・授業の目的と概要： この授業では、記録史料を精読することを通じて、室町時代後期の政治や社会について検討を加える。主な史料は、『蔭涼軒日録』『後法興院記』『親長卿記』『大乘院寺社雑事記』。当然のことながら、授業は受講生による発表と議論が中心となる。受講者には、日本史演習「鎌倉時代の法と社会」より、一層高度な力量が求められる（大学院生レベルを想定）。

3. 学習の到達目標：(1) 日本中世史に関する高度な研究能力を身につける。
(2) 報告・討論の方法を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス
 - 2) 学生による報告と討論
 - 3) 学生による報告と討論
 - 4) 学生による報告と討論
 - 5) 学生による報告と討論
 - 6) 学生による報告と討論
 - 7) 学生による報告と討論
 - 8) 学生による報告と討論
 - 9) 学生による報告と討論
 - 10) 学生による報告と討論
 - 11) 学生による報告と討論
 - 12) 学生による報告と討論
 - 13) 学生による報告と討論
 - 14) 学生による報告と討論
 - 15) 授業のまとめ
- 原則として対面

5. 成績評価方法：リポート [40%]・出席 [20%]・その他（授業中における発表の内容、授業への参加度） [40%]

6. 教科書および参考書：随時プリントを配布する。

7. 授業時間外学習：報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

日本史演習「室町時代後期の政治と社会(1)(2)」は連続履修すること。

科目名：日本史演習

曜日・講時：火曜3限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：堀 裕

コード：LB52306, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：古代史料の研究（2）

2・授業の目的と概要：史料を内容によって分類するならば、歴史書と法律、日記（古記録）、古文書、物語、聖教、歌、帳簿、記念碑などに分けることができる。このなかでも法律は、国家や社会、生活を考えるために重要な史料である。日本古代史においては、律（刑法）・令（行政法）・格（単行法令）・式（施行細則）が著名である。なかでも、8世紀に編纂された養老令は、現在おおよそ全貌を知ることができる基本法典である。この養老令の各条文について、法律家（明法家）の考えをまとめた9世紀の私撰注釈書が『令集解』であった。本演習では、『令集解』に記載された令本文と古代の法律家の注釈を精読する。これによって、唐から継受しつつも、独自の規定を生み出した日本古代法の特徴を明らかにし、あわせて日本古代の国家や社会の特色を析出する。

3. 学習の到達目標：日本古代の法典である令に関する知識を得て、理解を深めるとともに、その内容から日本古代の歴史像を構築する力を養う。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

対面授業とリアルタイム型オンライン授業の併用

1. ガイダンス『令集解』とは何か。講読のすすめかた。
2. 『令集解』を読む（1）
3. 『令集解』を読む（2）
4. 『令集解』を読む（3）
5. 『令集解』を読む（4）
6. 『令集解』を読む（5）
7. 『令集解』を読む（6）
8. 『令集解』を読む（7）
9. 『令集解』を読む（8）
10. 『令集解』を読む（9）
11. 『令集解』を読む（10）
12. 『令集解』を読む（11）
13. 『令集解』を読む（12）
14. 『令集解』を読む（13）
15. まとめ

5. 成績評価方法：レポート（50%）報告および討論などでの授業参加（50%）

6. 教科書および参考書：テキスト 新訂増補国史大系普及版『令集解』（吉川弘文館）。

7. 授業時間外学習：事前に史料を読んでから演習に参加すること。報告を担当する場合は、予習をしてプリントを準備すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本史演習

曜日・講時：火曜 4 限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB52404, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：近世史料研究（1）

2・授業の目的と概要：本講義では、近世史料の正確な読解能力を養成する。素材には、伊達騒動に関する記録である「桃遠境論集」を用いる。御家騒動の代表例として名高い伊達騒動に関する史料を読み進めながら、事件そのものはもちろんであるが、近世前期の武家社会、藩主と重臣の関係、藩内政治の実像、武家文書の特徴、仙台藩士の存在形態、村と境界の問題などを考えていく。原文書のコピーを使用するため、相当の古文書読解能力を必要とする。

3. 学習の到達目標：(1)近世史料についての基礎的な読解能力を身につける。

(2)史料読解を通じて、自ら問題・関心を発見するきっかけをつかむ。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は対面で実施するが、場合によりオンライン受講を認める。

1. ガイダンス
2. 伊達騒動について(1)
3. 伊達騒動について(2)
4. 史料読解の報告と討論(1)
5. 史料読解の報告と討論(2)
6. 史料読解の報告と討論(3)
7. 史料読解の報告と討論(4)
8. 史料読解の報告と討論(5)
9. 史料読解の報告と討論(6)
10. 史料読解の報告と討論(7)
11. 史料読解の報告と討論(8)
12. 史料読解の報告と討論(9)
13. 史料読解の報告と討論(10)
14. 史料読解の報告と討論(11)
15. 史料読解の報告と討論(12)

5. 成績評価方法：出席[20%]・レポート[40%]・その他（報告の内容・討論への取り組みなど）[40%]

6. 教科書および参考書：「桃遠境論集」（コピー配布） 参考書：大槻文彦『伊達騒動実録』（吉川弘文館）、『仙台市史』通史編 4 近世 2（仙台市）、小林清治『伊達騒動と原田甲斐』（吉川弘文館）、児玉幸多編『くずし字用例辞典』（東京堂出版）、佐藤孝之監修『近世史を学ぶための古文書「候文」入門』（吉川弘文館）。

7. 授業時間外学習：予習として、事前に配布された古文書のコピーについて古文書解読辞典を用いて読解し、文字・言葉の意味を各種辞典を用いて調べ、読み下し、現代語訳を作成する。受講後、講義内容をもとに自らの解釈の問題点を修正し、さらに習熟に努める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

必ず「近世史料研究（2）」と連続で受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

科目名：日本史演習

曜日・講時：火曜 5 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：安達 宏昭

コード：LB52504, **科目ナンバリング：**LHM-HIS306J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：近現代史研究法 (1)

2・授業の目的と概要：近現代史における基礎的な研究内容について学び、受講者相互に認識を深めるとともに、各自が研究テーマを設定して、その問題関心、視角、実証分析について発表する。そして、それに対する討論を通して、発表者の研究方法について課題を明確にする。近現代史で卒業論文を書くことを考えている者は必ず履修すること (3 年生も)

3. 学習の到達目標：(1) 先行研究を分析・批判して、自らの研究課題を選定できるようになる。

(2) 自らの研究課題にそって、自分で史料を収集し分析できるようになる。

(3) 上記の 2 つの点をふまえて、歴史研究の研究論文をまとめることができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・日本近現代史研究の意義

2. 受講者の研究報告と討論 (1)

3. 受講者の研究報告と討論 (2)

4. 受講者の研究報告と討論 (3)

5. 受講者の研究報告と討論 (4)

6. 受講者の研究報告と討論 (5)

7. 受講者の研究報告と討論 (6)

8. 受講者の研究報告と討論 (7)

9. 受講者の研究報告と討論 (8)

10. 受講者の研究報告と討論 (9)

11. 受講者の研究報告と討論 (10)

12. 受講者の研究報告と討論 (11)

13. 受講者の研究報告と討論 (12)

14. 受講者の研究報告と討論 (13)

15. 受講者の研究報告と討論 (14)

5. 成績評価方法：() 筆記試験 [%]・(○) レポート [40%]・(○) 出席 [20%]・(○) その他 (発表態度、受講態度) [40%]

6. 教科書および参考書：特になし。

7. 授業時間外学習：報告者の研究テーマに関する史実や先行研究などを、事前に学習しておく。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:20~17:50、要予約

履修要件：「近現代史研究法 (1) (2)」(安達担当) は、原則として連続して履修すること。

科目名：日本史演習

曜日・講時：水曜3限

Semester：5 単位数：2.00 単位

担当教員：安達 宏昭

コード：LB53305, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：近現代政治・社会史の研究 (1)

2・授業の目的と概要：戦時期の国家中枢の資料である参謀本部編『杉山メモ』と参謀本部戦争指導班『機密戦争日誌』を照合して読解し、関連する史料などとあわせて、近現代日本の政治・社会について考察する。演習形式で行い、報告者に対する質問や討論により、受講者の各自の認識を深める。

3. 学習の到達目標：(1)史料を幅広い視点から分析できるようになる。

(2)史料分析を通して、時代状況を理解できるようになる。

(3)上記2つを通して日本近現代史に対する認識を深めることができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・史料の概要
2. アジア・太平洋戦争中の陸軍に関する研究の把握
3. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (1)
4. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (2)
5. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (3)
6. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (4)
7. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (5)
8. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (6)
9. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (7)
10. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (8)
11. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (9)
12. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (10)
13. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (11)
14. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (12)
15. これまでの報告と討論のまとめ

5. 成績評価方法：(○) リポート [40%]・(○) 出席 [20%]・(○) その他 (発表態度、受講態度) [40%]

6. 教科書および参考書：史料は、随時、配付する。

7. 授業時間外学習：『杉山メモ』『機密戦争日誌』について、毎週、翌週の報告者が担当する箇所の記述を読んできて、その叙述に対する疑問点・問題点を、報告者に質問できるようにする。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:50、要予約

履修要件：「近現代政治・社会史の研究 (1) (2)」(安達担当)は、原則として連続して履修すること。

科目名：日本史演習

曜日・講時：水曜 5 限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB53502, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：近世史研究法 (1)

2・授業の目的と概要：受講者各自が、日本近世史に関して自らの研究テーマに基づいて研究報告をし、それを参加者全員で討議する。研究の実践の場として、受講者自身の論文執筆に資することはもちろんであるが、報告・司会の方法に習熟し、加えて他の受講者の意見や報告を通じて新たな知見を得ることもねらいとする。大学院生レベルの内容であるが、日本近世史で卒業論文の執筆を希望する3年生・4年生は必ず受講すること。加えて、必ず「近世史研究法 (2)」と連続で受講すること。

3. 学習の到達目標：(1)日本近世史において、高度な史料読解能力と、自主的な研究能力を培う。

(2)報告・討議をもとに、分析をまとめ、研究論文の執筆を準備する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は対面で実施するが、場合によりオンライン受講を認める。

1. ガイダンス
2. 受講者による報告と討議 (1)
3. 受講者による報告と討議 (2)
4. 受講者による報告と討議 (3)
5. 受講者による報告と討議 (4)
6. 受講者による報告と討議 (5)
7. 受講者による報告と討議 (6)
8. 受講者による報告と討議 (7)
9. 受講者による報告と討議 (8)
10. 受講者による報告と討議 (9)
11. 受講者による報告と討議 (10)
12. 受講者による報告と討議 (11)
13. 受講者による報告と討議 (12)
14. 受講者による報告と討議 (13)
15. 受講者による報告と討議 (14)

5. 成績評価方法：出席[20%]・レポート[40%]・その他（報告の内容・討議への取り組みなど）[40%]

6. 教科書および参考書：特になし。

7. 授業時間外学習：授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。レジュメが事前に示されている場合はそのレジュメを熟読し、質問・意見を検討しておく。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

必ず「近世史研究法 (2)」と連続で受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50 (要予約)

科目名：日本史演習

曜日・講時：金曜3限

Semester：5 単位数：2.00 単位

担当教員：堀 裕

コード：LB55303, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：古代史料研究（1）

2・授業の目的と概要：歴史史料のなかで王道というべきは歴史書である。歴史研究もその延長線上にあるといってもよい。本演習は、日本古代史研究に取り組む者が、一度は読んだことのある『続日本紀』の講読を行う。『続日本紀』は、8世紀を中心とした歴史書であり、現在講読している箇所は、聖武天皇即位後であり、長屋王の変や藤原光明子の立後のあたりになるであろう。これを用いて、古代史料の読解力を磨くとともに、史料としての扱い方に習熟するとともに、研究課題の抽出を行うことまで到達してほしい。授業は毎回担当者が報告を行う。なお、できれば、現地見学会を実施するほか、平安時代の法制史料『類聚三代格』も用いる。

3. 学習の到達目標：1 古代史料の読解力の養成と史料としての扱い方の習熟

2 史料から研究課題を抽出する力を磨く

4. 授業の内容・方法と進度予定：

対面授業とリアルタイム型オンライン授業の併用

1. ガイダンス 『続日本紀』と講読のすすめかたについての説明
2. 史料を読む（1）
3. 史料を読む（2）
4. 史料を読む（3）
5. 史料を読む（4）
6. 史料を読む（5）
7. 史料を読む（6）
8. 史料を読む（7）
9. 史料を読む（8）
10. 史料を読む（9）
11. 史料を読む（10）
12. 史料を読む（11）
13. 史料を読む（12）
14. 史料を読む（13）
15. まとめ

5. 成績評価方法：レポート（50%）報告と授業への参加（50%）

6. 教科書および参考書：テキスト 新訂増補国史大系普及版『続日本紀』前編・後編（吉川弘文館）、同『類聚三代格』（同）

7. 授業時間外学習：事前に史料を読んでから演習に参加すること。報告を担当する場合は、予習をしてプリントを準備すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

古代史料研究（1）（2）は連続して履修することが望ましい。

科目名：日本史演習

曜日・講時：月曜3限

Semester：6 単位数：2.00 単位

担当教員：柳原 敏昭

コード：LB61306, **科目ナンバリング：**LHM-HIS306J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：鎌倉時代の裁判と社会(2)

2・授業の目的と概要：「鎌倉時代の法と社会(1)」の続講。単なる史料の読み方や基本的な知識を学ぶ場ではなく、問題点を発見し議論する場と位置づけているので、発表者には問題提起的な報告をすることが求められる。また、それ以外の受講生も主体的に議論に参加しなければならない。受講者が任意にテーマを選び報告する機会も設けたい。

3. 学習の到達目標：(1)中世史料の読解力を身につける。

(2)鎌倉時代の法と社会について理解を深める。

(3)報告・討論の方法の基礎を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス
 - 2) 学生による報告と討論
 - 3) 学生による報告と討論
 - 4) 学生による報告と討論
 - 5) 学生による報告と討論
 - 6) 学生による報告と討論
 - 7) 学生による報告と討論
 - 8) 学生による報告と討論
 - 9) 学生による報告と討論
 - 10) 学生による報告と討論
 - 11) 学生による報告と討論
 - 12) 学生による報告と討論
 - 13) 学生による報告と討論
 - 14) 学生による報告と討論
 - 15) 授業のまとめ
- 原則として対面

5. 成績評価方法：レポート [40%]・出席 [20%]・その他(授業中における発表の内容、授業への参加度) [40%]

6. 教科書および参考書：テキストは開講時に配付する。参考書は瀬野精一郎編『鎌倉幕府裁許状集』上下(吉川弘文館)。

7. 授業時間外学習：報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

日本史演習「鎌倉時代の法と社会(1)(2)」(柳原担当)は連続履修すること。

科目名：日本史演習

曜日・講時：月曜 4 限

semester：6 単位数：2.00 単位

担当教員：柳原 敏昭

コード：LB61403, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：室町時代後期の政治と社会 (2)

2. 授業の目的と概要：「室町時代後期の政治と社会」(1)の続講。

3. 学習の到達目標：(1)日本中世史に関する高度な研究能力を身につける。
(2)報告・討論の方法を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス
 - 2) 学生による報告と討論
 - 3) 学生による報告と討論
 - 4) 学生による報告と討論
 - 5) 学生による報告と討論
 - 6) 学生による報告と討論
 - 7) 学生による報告と討論
 - 8) 学生による報告と討論
 - 9) 学生による報告と討論
 - 10) 学生による報告と討論
 - 11) 学生による報告と討論
 - 12) 学生による報告と討論
 - 13) 学生による報告と討論
 - 14) 学生による報告と討論
 - 15) 授業のまとめ
- 原則として対面

5. 成績評価方法：レポート [40%]・出席 [20%]・その他（授業中における発表の内容、授業への参加度）[40%]

6. 教科書および参考書：随時プリントを配布する。

7. 授業時間外学習：報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

日本史演習「室町時代後期の政治と社会」(1)(2)は連続履修すること。

科目名：日本史演習

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：6 単位数：2.00 単位

担当教員：堀 裕

コード：LB62206, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：古代史料の研究（2）

2・授業の目的と概要： 摂関期以降の研究を行うためには、平安時代の男性貴族が書いた古記録（日記）を読む必要がある。現在、藤原道長の書いた『御堂関白記』や、藤原行成の書いた『権記』など多くの古記録が残されており、私たちはそれらを通して、藤原道長が官廷社会でどのような振る舞いをしていたのか、平安京での人々の暮らしはどのようなものであったのか、あるいは当時の地方社会や宋・高麗との関係を知ることができる。古記録のなかでも、藤原実資の書いた『小右記』は、藤原道長とはやや距離をとった立場で、詳細な記録を残しており、平安時代史研究にとっては必読の書である。『小右記』など平安時代中期の男性貴族の日記は、漢文で記されているものの、それまでの日本で書かれてきた史料とは異なって、和風の文法構造で書かれている。このため、読解には習熟すを要する。演習では、記載された内容の精読と、関連する史料の調査を行うこととする。これによって、古記録の扱い方を学び、古記録を利用した歴史像の構築の方法を理解する。なお、授業では各回担当者が報告する。

3. 学習の到達目標： 日本古代の古記録、とくに男性貴族の記した日記に関する知識を得て、その読解能力を高める。古記録の内容から、平安時代の歴史像を構築する力を養う。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス 『小右記』の概要と講読の方法を説明する。
2. 『小右記』を読む（1）
3. 『小右記』を読む（2）
4. 『小右記』を読む（3）
5. 『小右記』を読む（4）
6. 『小右記』を読む（5）
7. 『小右記』を読む（6）
8. 『小右記』を読む（7）
9. 『小右記』を読む（8）
10. 『小右記』を読む（9）
11. 『小右記』を読む（10）
12. 『小右記』を読む（11）
13. 『小右記』を読む（12）
14. 『小右記』を読む（13）
15. まとめ

5. 成績評価方法： レポート（50%）・授業での報告と討論への参加（50%）

6. 教科書および参考書： テキスト 『大日本古記録 小右記』1～11（岩波書店）

7. 授業時間外学習： 事前に史料を読んでから演習に参加すること。報告を担当する場合は、予習をしてプリントを準備すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本史演習

曜日・講時：火曜 4 限

semester：6 単位数：2.00 単位

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB62406, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：近世史料研究（2）

2・授業の目的と概要：「近世史料研究(1)」の続講。近世史料の正確な読解や基礎的な知識を身につけ、その上で自ら論点を探り、深めていく。受講者には、講義への主体的な参加を求める。なお、必ず「近世史料研究(1)」と連続で受講すること。

3. 学習の到達目標：(1)近世史料についての読解能力を身につける。

(2)史料読解を通じて、自ら問題・関心を発見し深めていくきっかけをつかむ。

(3)卒業論文作成に向けて、史料から論点を導き出す方法を習熟する。

4. 授業の内容・方法と進捗予定：

本講義は対面で実施するが、場合によりオンライン受講を認める。

1. ガイダンス
2. 史料読解の報告と討論(1)
3. 史料読解の報告と討論(2)
4. 史料読解の報告と討論(3)
5. 史料読解の報告と討論(4)
6. 史料読解の報告と討論(5)
7. 史料読解の報告と討論(6)
8. 史料読解の報告と討論(7)
9. 史料読解の報告と討論(8)
10. 史料読解の報告と討論(9)
11. 史料読解の報告と討論(10)
12. 史料読解の報告と討論(11)
13. 史料読解の報告と討論(12)
14. 史料読解の報告と討論(13)
15. 史料読解の報告と討論(14)

5. 成績評価方法：出席[20%]・レポート[40%]・その他（報告の内容・討論への取り組みなど）[40%]

6. 教科書および参考書：「桃遠境論集」（コピー配布） 参考書：大槻文彦『伊達騒動実録』（吉川弘文館）、『仙台市史』通史編 4 近世 2（仙台市）、小林清治『伊達騒動と原田甲斐』（吉川弘文館）、児玉幸多編『くずし字用例辞典』（東京堂出版）、佐藤孝之監修『近世史を学ぶための古文書「候文」入門』（吉川弘文館）

7. 授業時間外学習：予習として、事前に配布された古文書のコピーについて古文書解読辞典を用いて読解し、文字・言葉の意味を各種辞典を用いて調べ、読み下し、現代語訳を作成する。受講後、講義内容をもとに自らの解釈の問題点を修正し、さらに習熟に努める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

必ず「近世史料研究（1）」と連続で受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

科目名：日本史演習

曜日・講時：火曜 5 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：安達 宏昭

コード：LB62502, **科目ナンバリング：**LHM-HIS306J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：近現代史研究法 (2)

2・授業の目的と概要：前期の日本史研究法 (1) の研究発表をふまえて、さらに研究を進めて、その成果を報告する。そして、討論を通して課題を絞り、論文などにまとめていく。このことを通して、受講者が、日本近現代史における現在の研究内容について学び、新しい歴史研究の構築とその内容の理解について認識を深める。近現代史で卒業論文を書くことを考えている者は必ず履修すること (3 年生も)

- 3. 学習の到達目標：**(1) 先行研究を分析・批判して、自らの研究課題を選定できるようになる。
(2) 自らの研究課題にそって、自分で史料を収集し分析できるようになる。
(3) 上記の 2 つの点をふまえて、歴史研究の研究論文をまとめることができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・日本近現代史研究の意義
2. 受講者の研究報告と討論 (1)
3. 受講者の研究報告と討論 (2)
4. 受講者の研究報告と討論 (3)
5. 受講者の研究報告と討論 (4)
6. 受講者の研究報告と討論 (5)
7. 受講者の研究報告と討論 (6)
8. 受講者の研究報告と討論 (7)
9. 受講者の研究報告と討論 (8)
10. 受講者の研究報告と討論 (9)
11. 受講者の研究報告と討論 (10)
12. 受講者の研究報告と討論 (11)
13. 受講者の研究報告と討論 (12)
14. 受講者の研究報告と討論 (13)
15. 受講者の研究報告と討論 (14)

5. 成績評価方法：() 筆記試験 [%] ・ (○) レポート [40%] ・ (○) 出席 [20%] ・ (○) その他 (発表態度、受講態度) [40%]

6. 教科書および参考書：特になし。

7. 授業時間外学習：報告者の研究テーマに関する史実や先行研究などを、事前に学習しておく。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:20~17:50、要予約

履修要件：「近現代史研究法 (1) (2)」(安達担当) は、原則として連続して履修すること

科目名：日本史演習

曜日・講時：水曜 3 限

Semester：6 単位数：2.00 単位

担当教員：安達 宏昭

コード：LB63307, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：近現代政治・社会史の研究（2）

2・授業の目的と概要：前期の史料講読の続講。参謀本部編『杉山メモ』と参謀本部戦争指導班『機密戦争日誌』を照合して読解し、関連する史料などとあわせて、近現代日本の政治・社会について考察する。演習形式で行い、報告者に対する質問や討論により、受講者の各自の認識を深める。

3. 学習の到達目標：(1) 史料を幅広い視点から分析できるようになる。
(2) 史料分析を通して、時代状況を理解できるようになる。
(3) 上記2つを通して日本近現代史に対する認識を深めることができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・史料の概要
2. アジア・太平洋戦争中期以降の陸軍に関する研究の把握
3. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (1)
4. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (2)
5. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (3)
6. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (4)
7. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (5)
8. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (6)
9. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (7)
10. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (8)
11. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (9)
12. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (10)
13. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (11)
14. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (12)
15. これまでの報告と討論のまとめ

5. 成績評価方法：(○) リポート [40%]・(○) 出席 [20%]・(○) その他（発表態度、受講態度）[40%]

6. 教科書および参考書：史料は、随時、配付する。

7. 授業時間外学習：『杉山メモ』『機密戦争日誌』について、毎週、翌週の報告者が担当する箇所の記述を読んできて、その叙述に対する疑問点・問題点を、報告者に質問できるようにする。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:50、要予約

履修要件：「近現代政治・社会史の研究（1）（2）」（安達担当）は、原則として連続して履修すること。

科目名：日本史演習

曜日・講時：水曜 5 限

セメスター：6 単位数：2.00 単位

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB63502, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：近世史研究法（2）

2・授業の目的と概要：「近世史研究法（1）」の続講。受講者は、自らの報告内容に講義中での議論を踏まえ、論文の執筆を目指していく。受講者には、主体的・積極的な議論への参加を求める。大学院生レベルの内容であるが、日本近世史で卒業論文の執筆を希望する3年生・4年生は必ず受講すること。加えて、必ず「近世史研究法（1）」と連続で受講すること。

3. 学習の到達目標：(1)日本近世史において、高度な史料読解能力と、自主的な研究能力を培う。
(2)報告・討論をもとに、分析をまとめ、研究論文の執筆を準備する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は対面で実施するが、場合によりオンライン受講を認める。

1. ガイダンス
2. 受講者による報告・討論(1)
3. 受講者による報告・討論(2)
4. 受講者による報告・討論(3)
5. 受講者による報告・討論(4)
6. 受講者による報告・討論(5)
7. 受講者による報告・討論(6)
8. 受講者による報告・討論(7)
9. 受講者による報告・討論(8)
10. 受講者による報告・討論(9)
11. 受講者による報告・討論(10)
12. 受講者による報告・討論(11)
13. 受講者による報告・討論(12)
14. 受講者による報告・討論(13)
15. 受講者による報告・討論(14)

5. 成績評価方法：出席[20%]・レポート[40%]・その他（報告の内容・討論への取り組みなど）[40%]

6. 教科書および参考書：特になし。

7. 授業時間外学習：授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。レジュメが事前に示されている場合はそのレジュメを熟読し、質問・意見を検討しておく。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

必ず「近世史研究法（1）」と連続で受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

科目名：日本史演習

曜日・講時：金曜3限

セメスター：6 単位数：2.00 単位

担当教員：堀 裕

コード：LB65303, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：古代史料研究（2）

2・授業の目的と概要：歴史史料のなかで王道というべきは歴史書である。歴史研究もその延長線上にあるといってもよい。本演習は、日本古代史研究に取り組む者が、一度は読んだことのある『続日本紀』の講読を行う。『続日本紀』は、8世紀を中心とした歴史書であり、現在講読している箇所は、聖武天皇即位後であり、長屋王の変や藤原光明子の立後のあたりになるであろう。これを用いて、古代史料の読解力を磨くとともに、史料としての扱い方に習熟するとともに、研究課題の抽出を行うことまで到達してほしい。授業は毎回担当者が報告を行う。なお、できれば、現地見学会を実施するほか、平安時代の法制史料『類聚三代格』も用いる。

3. 学習の到達目標：1 古代史料の読解力の養成と史料としての扱い方の習熟

2 史料から研究課題を抽出する力を磨く

4. 授業の内容・方法と進度予定：

対面授業とリアルタイム型オンライン授業の併用

1. ガイダンス 今期の『続日本紀』と講読のすすめかたについての説明
2. 史料を読む（1）
3. 史料を読む（2）
4. 史料を読む（3）
5. 史料を読む（4）
6. 史料を読む（5）
7. 史料を読む（6）
8. 史料を読む（7）
9. 史料を読む（8）
10. 史料を読む（9）
11. 史料を読む（10）
12. 史料を読む（11）
13. 史料を読む（12）
14. 史料を読む（13）
15. まとめ

5. 成績評価方法：レポート（50％）報告と授業への参加（50％）

6. 教科書および参考書：テキスト 新訂増補国史大系普及版『続日本紀』前編・後編（吉川弘文館）、同『類聚三代格』（同）

7. 授業時間外学習：事前に史料を読んでから演習に参加すること。報告を担当する場合は、予習をしてプリントを準備すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

古代史料研究（1）（2）は連続履修すること。

科目名：日本史実習

曜日・講時：金曜 4 限、金曜 5 限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB55404, 科目ナンバリング：LHM-HIS307J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：史料整理・保存の理論と方法

2・授業の目的と概要：歴史学は、史料の内容を理解することに大きな比重を置く学問であるが、その一方で史料はモノとしての側面も持っている。モノとして伝来してきた史料を、歴史学の素材として、あるいは文字・画像の情報としてだけではなく、史料そのものを永く保存し、人類共有の文化遺産として後世に伝えなければならない。そのためには史料＝アーカイブズの特質や史料群の構造・伝来などを深く理解し、史料そのものを正しく取り扱い、適切に保存していく理論と方法を学ぶ必要がある。この講義では、史料の保存・活用のための学問であるアーカイブズ学についてその基礎を学ぶ。さらにそれをもとにして、博物館・図書館などとの機能の相違や、実物史料の取り扱い方、史料の撮影や目録編成の理論などについて学んでいく。なお、受講に際し、相当の古文書読解能力が必要となるので、事前に古文書学あるいは古文書関係の講義等を受講していることが望ましい。また、実物の史料に触れることがあるので、特に丁寧な取り扱いを心がけてほしい。

3. 学習の到達目標：史料保存の意義と理論・方法について理解し、史料の調査・整理・保存に関する基礎的知識を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は原則として対面で実施するが、講義形式の授業のみ場合によりオンライン受講を認める。

1. ガイダンス・史料保存の意義と意味 (1)
2. 史料保存の意義と意味 (2)
3. 文書館・図書館・博物館-史料保存機関の性格と特色-
4. アーカイブズの理論(1)
5. アーカイブズの理論(2)
6. 史料調査・整理の実際
7. 目録論
8. 目録作成の技術 (1)
9. 目録作成の技術 (2)
10. 歴史資料の取り扱いとその実践
11. デジタルカメラの取り扱いと撮影の実際
12. フィールド実習
13. 史料整理の基礎 (1)
14. 史料整理の基礎 (2)
15. 史料整理の基礎 (3)

5. 成績評価方法：出席[20%]・受講態度[40%]・レポート[40%]

6. 教科書および参考書：随時プリントを配布する。参考書：安藤正人・大藤修『史料保存と文書館学』（吉川弘文館）。

7. 授業時間外学習：授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

○

9. その他：

本講義の理論・技術をもとにした実践的な訓練を積むために、必ず日本史実習「史料整理実習」（後期開講）と連続して受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

主として実践的教育から構成される実務・実践的授業/Practical business

科目名：日本史実習

曜日・講時：金曜 4 限、金曜 5 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB65406, **科目ナンバリング：**LHM-HIS307J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：史料整理実習

2・授業の目的と概要：実際に史料整理を行う。大規模な文書群を対象として取り上げ、史料の取り扱い、現状の把握、基本データの採録、目録作成、保存に向けての作業など、史料整理に関する基本的な実務を実際に行う。さらに、自ら整理した史料について、その個別の内容の理解だけではなく、文書群のなかにおける位置づけや文書群そのものの構造など、幅広く文書群を把握する方法を学ぶ。なお、受講に際し、相当の古文書読解能力が必要となるので、事前に古文書学あるいは古文書関係の講義等を受講していることが望ましい。また、実物の史料に触れるので、その際には特に丁寧な取り扱いを心がけてほしい。

3. 学習の到達目標：実際に実物の史料を整理し、「史料整理・保存の理論と方法」において学習した史料整理の理論と方法を体得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は原則として対面で実施する。

1. ガイダンス
2. 史料整理実習 (1)
3. 史料整理実習 (2)
4. 史料整理実習 (3)
5. 史料整理実習 (4)
6. 史料整理実習 (5)
7. 史料整理実習 (6)
8. 史料整理実習 (7)
9. 史料整理実習 (8)
10. 史料整理実習 (9)
11. 史料整理実習 (10)
12. 史料整理実習 (11)
13. 史料整理実習 (12)
14. 史料整理実習 (13)
15. 史料整理実習 (14)・整理内容報告

5. 成績評価方法：出席[30%]・受講態度[70%]

6. 教科書および参考書：各自古文書読解用辞典類を持参すること。

7. 授業時間外学習：前期内容を十分に復習し、あわせて古文書読解の練習に努める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

○

9. その他：

必ず日本史実習「史料整理・保存の理論と方法」と連続して受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50 (要予約)

科目名：アーカイブズ学演習

曜日・講時：木曜 2 限

semester：5 単位数：2.00 単位

担当教員：加藤 諭

コード：LB54206, 科目ナンバリング：LHM-HIS314J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：アーカイブズ学研究法

2・授業の目的と概要：本講義は、実際にアーカイブズ機関において必要とされるアーキビストの業務について、ディスカッションや実践を通じて体得する授業である。アーカイブズ機関の現場で求められるアーキビストの使命・倫理、資料保存に関する技術、公文書の保存・修復・利用に関する知識、専門的な知識やマネジメント、職務上必要なスキルやマネジメント能力について、理解を深めることを目的とする。

3. 学習の到達目標：本講義は、現場のアーキビストとのディスカッションや、マネジメントに関する演習等をおこない、アーカイブズ機関において必要とされるアーキビストの知識・技能を体得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. アーキビストの使命と役割
3. 国立大学法人における文書管理と連携
4. 大学アーカイブズにおける保存・修復・利用
5. 大学アーカイブズにおける MLA 連携とアウトリーチ活動
6. さまざまなアーカイブズにおける業務と実践①
7. 自治体アーカイブズにおける業務と実践①
8. 自治体アーカイブズにおける業務と実践②
9. 民間アーカイブズにおける業務と実践
10. 自治体アーカイブズにおける業務と実践③
11. さまざまなアーカイブズにおける業務と実践②
12. さまざまなアーカイブズにおける業務と実践③
13. 東北大学史料館における記録資料の整理公開①
14. 東北大学史料館における記録資料の整理公開②
15. まとめ

5. 成績評価方法：出席[20%]・受講態度[40%]・レポート[40%]

6. 教科書および参考書：エリザベス・シェパード、ジェフリー・ヨー（共著）、森本祥子、平野泉、松崎裕子（編・訳）『レコード・マネジメント・ハンドブック：記録管理・アーカイブズ管理のための』日外アソシエーツ、2016年、スー・マケミッシュ、マイケル・ピゴット、バーバラ・リード、フランク・アップウォード（共編）、安藤正人、石原一則、坂口貴弘、塚田治郎、保坂裕興（訳）『アーカイブズ論：記録のちからと現代社会』明石書店、2019年

7. 授業時間外学習：授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：